

特別支援教育 理論研修会 終了報告

テーマ	「文教ペンギンメソッドの理論と実際 ～こどものかわり行動の分析体験を通して～」	
日時	平成29年 8月 1日(火)	
会場	石狩教育研修センター	
講師	川端 愛子 氏 (北海道文教大学大学院 こども発達学研究所 講師)	
参加者	34名	
		<p>北海道文教大学の川端愛子氏をお迎えし、「文教ペンギンメソッドの理論と実際」というテーマで、講演いただきました。障がい児教育部会や言語部門所属者だけでなく、他の部会の方の参加も多く、このテーマへの関心が高いことがわかりました。</p>
		<p>はじめに、文教大学にある「文教ペンギンルーム」の取組について紹介がありました。川端氏の日頃の研究実践に関して、具体的なお話をして頂きました。</p>
		<p>川端氏が研究された内容を通して、これまでの経過をたくさんのスライドで詳しく教えていただきました。その中で「PAC分析」という分析法があり、調査の手順について説明がありました。とても大切な要素を含んでいることがよく理解できました。</p>
		<p>後半はクリッカーを使用している取組についてのお話でした。「文教ペンギンルーム」の指導時の動画をみながら、講習会の参加者も実際にクリッカーを使いました。場面ごとに、それぞれの子どもたちがどのような関わりをしているのか、教えていただきました。</p>
		<p>子どもの状況を、私たち大人が気づくことが必要であること、そのためにしっかり観察できる力をつけることが必要であることなど、大切なことをたくさん教えていただきました。とても有意義な研修となりました。</p>